「豊かな報いを受ける」　　2025 年 12 月 30 日

なぜなら、人を惑わす者が大勢世に出て行ったからです。彼らは、イエス・キリストが肉体をとって（となって）来られたことを告白しません。こういう者は人を惑わす者であり、反キリストです。よく気をつけて、私たちが働いて得たものを失うことなく、豊かな報いを受けるようにしなさい。先走って、キリストの教えにとどまらない者は皆、神を持っていません。その教えにとどまっている人は、御父と御子とを持っています。この教えを携えずにあなたがたのところに来る者は、家に入れてはなりません。挨拶してもなりません。そのような者に挨拶する人は、その悪い行いを共にすることになります。あなたがたに書くことはたくさんありますが、紙とインクで書こうとは思いません。私たちの喜びが満ち溢れるように、あなたがたのところに行き、親しく話したいと思います。選ばれたあなたの姉妹の子どもたちが、あなたによろしくと言っていま す。（Ⅱヨハネ 7～13）

Ⅱヨハネの著者・長老は「選ばれた婦人とその子どもたちへ」と、当時、軽視されていた婦人と子どもに宛てて手紙を書き、「父なる神と、父の御子イエス・キリストから、恵みと憐れみと平和が、真理と愛の内に私たちと共にありますように」と祈っている。そして、「私たちが初めから持っていた戒め、つまり、互いに愛し合うということです。愛とは、御父の戒めに従って歩むことであり、この戒めは、あなたがたが初めから聞いているように、真理の内に歩むことです」と、互いに愛し合う戒めに従い、真理の内を生きるように勧めている。長老は、このように愛を勧めるのは、人を惑わす者が大勢世に出て来て、彼らは主イエスが肉体をとって来られたことを告白せず、これを否定するからであると言う。こういう者は人を惑わす者、反キリストである。私たちが、キリストの福音を聞いて得たものを失うことなく、豊かな報いを受けるようにしなさい。先走って、キリストの教えにとどまらない者は皆、神に結ばれていない。キリストの教えに留まっている人に、御父と御子イエスも共におられる。この教えを否定してあなたがたのところに来る者は、家に入れてはならない。挨拶もしてもならない。彼らに挨拶する人は、その悪い行いに加わることになる。反キリストを厳しく排除している。

「ヨハネ教団」の周りでは、主イエスは肉体をとって遣わされたのではなく、霊的な存在であると語るグノーシス主義の教えが広まっていた。肉体を無視し、霊的なイエス像を語る教えは、信仰を抽象的に理解し、この世の問題に具体的に関わることを止めてしまう。他者との関りを責任的に果たそうとしなくなり、信仰が知的な遊びに堕する。「ヨハネ教団」は、主イエスは肉体をとって遣わされたことを強調し、神は、主イエスを通し、この世に具体的な愛をもって関わってくださったと宣教した。それは、主イエスの愛に倣い、隣人の苦悩や痛みに届く愛であると説いたのである。ヨハネ福音書 3 章 16 節に、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」と告げている。長老は、「あなたがたに書くことはたくさんありますが、紙とインクで書こうとは思いません」と述べ、主イエスにある真の喜びが満ち溢れるように、「あなたがたのところに行って親しく話したいと思います」と書いている。顔と顔を合わせて、愛を互に確認し合う。そこに、主イエスの愛が息づく教会の姿がある。「選ばれたあなたの姉妹の子どもたちが、あなたによろしくと言っています」と、長老のもとにいる、婦人の仲間の子どもたちからの挨拶をも彼らの母親に伝えている。